

養老の里便り

第 73 号

令和 8 年(2026)

8 月 26 日

老人保健施設 養老の里

リハビリテーションや献身的な看護・介護を中心とした医療サービスと日常生活上のサービスを通して、自立を支援し、家庭への復帰をしていただくための施設です。



地域の皆様へ

お盆を過ぎて、暑いながらも朝夕がしのぎやすい時節となりました。皆様には如何お過ごしでしょうか。日頃、養老の里へのご理解とご支援をありがとうございます。

例年と異なる動きの台風襲来があり、関東に上陸して大水害を起こしていますし、熊本では 10 年前の爪痕が今なお残る状態で、再び大きな地震が襲って大きな被害が生じています。被災者の苦難に対し全国から数多くボランティアが参集し、我が国の民度の高さを示しています。そのような中、今年の夏も高校野球の熱戦が繰り広げられ、全国の野球ファンをテレビに釘付けにしています。全国各地の予選を勝ち上がって初めて甲子園の地を踏むことができる。野球を愛し、毎日の鍛錬で身体・技術を鍛え上げて、多くの高校野球選手が甲子園を目指します。過酷な暑さの中熱戦を繰り広げ、選手たちの心技体がぶつかり合う高校野球は、日本人の心を熱くするものがあります。

戦後 81 年が経過しました。今年の 8 月 15 日に全国戦没者追悼式が開催された日本武道館から高市首相が「遙拝」した靖国神社には、今年も多くの若者が参拝に訪れました。我が国の戦後教育では「靖国」を教わることはなかった（と思います）。教養として本来全教科を勉強すべきですが、私は学生時代歴史をほとんど勉強せずに過ごし、大人になってから歴史の重要性に気づいて独自に勉強してきたタイプの男です。が、どういうわけか今は若者や外国人の参拝が多いと聞きます。以前参拝に訪れたときも遊就館に外国人が多かったのに驚いたことがあります。SNS 等の発達により、靖国に関する関心が高くなっているのだと思います。国や故郷を想う気持ちは重要で大切です。戦に敗れ、焦土と化した故郷がここまで立派に復興するに至った先人の努力を想う気持ちを大切にしたいと思います。今年も靖国神社の境内に終戦時に詠まれた昭和天皇の御詠が刻まれています。「爆撃にたふれゆく民の上をおもひ いくさとめけり 身はいかならぬとも」この覚悟が GHQ のマッカーサーをして皇室の存続を成立させた原因であり力です。翌年の正月に詠まれた歌「降り積もる深雪に耐えて色変えぬ 松ぞ雄々しき人ぞかくあれ」と併せて、当時の昭和天皇のお気持ちを拝察するばかりです。

養老の里は、戦後の日本をここまで素晴らしい国にしてくださった方々が高齢となり、生活をしていただく場所です。その敬愛の気持ちを大切に、毎日皆で協力しながら仕事を続けています。地域の皆様と一緒に養老の里を造っていきたいと思います。

林 正俊

スタッフから

看護部から；暑い日がつづきます。脱水に注意しています。夏風邪が流行していますので、感染対策にも注意しています。

デイケア；8/20 納涼祭をしました。